

行政 トピックス



住みやすいまちづくり願う
地域の思いを府政・市政に

―知事と市長と―

和い和いミーティング

12月14日、山田知事と佐々木市長と地域住民が集い、意見交換をする「和い和いミーティング」を美山町江和の観光農園江和ランド敷地内で開催しました。



▲鹿肉解体処理施設のしゅん工を祝ってテープカット



▲より良いまちづくりを願って意見交換したミーティング

ミーティングに先立ち、同敷地内に完成した知井地区鹿肉解体処理施設のしゅん工式が行われました。増えすぎた鹿が農林業や自然環境に与える大きな被害から地域を守るために活動する知井地区鹿有効利用プロジェクト（大野安彦代表）。これらの狩猟活動で得られる資源を有効に利用しようと取り組まれています。テープカットに続き、解体処理施設の見学、そしてピザやシチューなどの鹿肉料理の試食が行われました。

会場を聴山美術館に移して行った「和い和いミーティング」には、会場いっぱいに参加者が集まりました。知事や市長と直接語り合えるこの機会にと、参加者から

は地域の活性化や課題について積極的な意見や質問が飛び交いました。鳥獣被害や鹿肉有効利用に関すること、美山のこれからの観光資源、自然環境保護、地域医療の問題…。会場内には、知事や市長に明るい未来を託す人々の、住みやすいまちづくりを一心に願う思いがあふれていました。

自然にやさしくコスト低減 資源の有効利用に取り組む

―南丹市液肥利用協議会設立総会
・近畿バイオマスセミナー―

南丹市は昨年度に「バイオマスタウン構想」を公表しました。「バイオマス」とは、動植物から生まれた再生できる有機性資源のこと、これらを安定的で適正に活用する地域を目指しています。

八木町諸畑の「南丹市八木バイオエコロジーセンター」では、乳牛や豚のふん尿、食品工場から出るおからなどをメタン発酵処理し、ガスを発生させて発電や肥料を製造。その際に発生する消化液を液肥として有効利用し、農作物を栽培する研究を京都大学と共同



▲メタン発酵施設を見学するセミナー参加者

で平成15年から進めています。この循環型社会の構築と環境保全を進める「南丹市液肥利用協議会」の設立総会が氷室の郷で1月28日に開催。会長に人見保夫水所生産組合長が選出されました。その後、バイオマスの利用促進について考える「近畿バイオマスセミナー」が同会場で開かれ、およそ150人が参加。基調講演では、梅田幹雄京都大学教授が、液肥の有効利用についての試験結果で安全性が保障されたことを報告。今後も農家と協力して栽培方法の改善、安全性の確認を追及すると話されました。その後、パネルディスカッションが行われ、参加者は自然にやさしいバイオマスの利活用について考えました。